



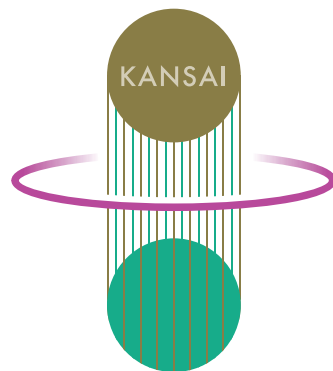
玉置 肇

TAMAOKI Hajime

パナソニック ホールディングス 代表取締役副社長執行役員
関経連副会長

談論
風発
INTERVIEW

デジタル革新と 国際連携で描く、関西の未来



このたび関経連副会長を拝命し、国際委員会と万博推進を担当させていただいております。微力ながら、関西経済の成長と発展に尽力してまいります。

当社は創業者が1918年に大阪で創立した松下電器器具製作所を母体に、家電製品の製造・販売に始まり、その後もビジネスの多角化と研究開発体制の強化を重ねてきました。2008年には欧米を中心に「品質の良さと信頼感・安心感」と「先進性・先端性」といったブランドイメージを蓄積してきた「Panasonic（パナソニック）」を社名に冠し、2011年には松下電工（当時はパナソニック電工）と三洋電機をグループに加え、業容を拡大。2022年4月には、さらなる企業競争力の向上のために持株会社体制へ移行し、各事業会社の自主責任を明確化しました。グループのスケールメリットを享受しながらも、迅速な意思決定と収益性向上をはかる経営体制を整え今日に至ります。

私は、2021年にグループのCIO（Chief Information Officer）として入社し、全社的なDXである「Panasonic Transformation（PX）」を立ち上げ、業務プロセスとビジネスのデジタル化をけん引してきました。2025年からはグループCIOに加えCTRO（Chief Transformation Officer）を兼務し、デジタル領域を超えて経営基盤全体の刷新・近代化を推進しています。

こうした取り組みを通じ、当社の変革を一層加速させるとともに、これまで育てていただいた関西地域の経済の活性化と持続的成長に貢献していきたいと考えています。

関経連での担当の一つである国際委員会では、長年の地道な活動で培った人的ネットワークやノウハウを基盤に、日本のみならず世界各国の発展に寄与する新たな取り組みを創出してまいります。

直近では、昨年11月に関西財界訪中代表団を12年ぶりに派遣し、政府要人との会談や中国国際サプライチェーン促進博覧会への参加、2025年大阪・関西万博のPRイベントの開催などを実施しました。また、今年4月には大阪で「アジア・ビジネス創出プラットフォーム」第4回全体会議を開催し、ASEAN5カ国の経済団体トップと活発な議論を交わしたほか、万博視察や松本会長との個別会談も行いました。

今後も継続的にこうした機会を設け、関経連と関西企業、中国およびASEAN諸国の政府機関・経済団体・企業との相互理解を深めてまいります。世界経済の重心がアジアにシフトするなか、アジア全域での経済発展を見据え、このネットワークを新たなビジネス創出につなげたいと考えています。

もう一つの担当である大阪・関西万博は、誘致段階から関西経済界が一丸となって取り組んだナショナルプロジェクトです。158の国・地域と7つの国際機関が参加し、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに国際社会が共創していくことの重要性を再確認する貴重な場となっています。各国からの来訪者をお迎えし、ビジネス交流が活発に行われることで、都市ブランドや企業イメージの向上、若い世代や海外への発信力強化など、多方面にわたる効果を生み出しています。万博を通して得られたこうしたプラスの要素が、関西の持続的発展とイノベーションの起点として、今後も大きな力を発揮し続けると確信しています。

最後に私自身のことについて少し触れたいと思います。生まれは東京ですが、大学・大学院は大阪で学び、2014年まで約28年間、関西で暮らしました。家族も関西に深い縁があり、この地に強い愛着を抱いています。当社創業の地でもある関西の発展に寄与し、関西経済界の一員として日本全体の経済成長に貢献できるよう、誠心誠意努めてまいります。（談）